



# The Star in the West

## 東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA  
THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342  
c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER. 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題  
アジア会長主題  
東日本区理事主題  
あずさ部部長主題  
東京西クラブ会長主題

“Misson with Faith” 「信念あるミッション」  
“Through Love, Service” 「愛をもって奉仕しよう」  
「原点に立って、未来へステップ」  
「ワイズメンとして一歩前進」  
「少しでも前へ進もう そしてあがいてみようこの一年」

2016年3月号  
NO 475

わたしは道であり、真理であり、命である。

新約聖書 ヨハネによる福音書 14章6節

### BFの月に思う

担当 山田利三郎

### 運がよければ、花見の宴

#### 197回 WHOウォーキング

今月は、BF 強調の月です。「無から有を生じる」というスローガンの下、使用済切手を集めて切手業者に売り、国際役員の海外公務旅行と各区のBF 代表の旅費の貴重な資金源でした。初期の名称はビショップファンドで、教会の教職が自由に使えるイメージでこのような名がつけられました。その後、1968 年にブラザーフッド・ファンド(Brotherhood Fund)と変わりました。

切手整理は、郵便物から切手をお湯又は水の中で剥がし、同じ切手を100枚ずつまとめ、キャラメルのお包み紙のようにして送りました。大変な作業でしたが、作業中はワイズのことを思い、個人で、時にはメンバーが集って、ワイワイ楽しく作りました。88-89年度からは台紙付きで(封筒やはがきから切り取ったままの未整理切手)500g、または1kg ずつを袋にいれ、今年度から部の主査に

送ります。作業が楽になりました。しかしFAX、メールが送信手段の中心になり、切手を集めるのが大変になりました。作業の割に販売価格も安くなり、切手より現金を出す人が多くなりました。

10kg 約6000枚/6,000円、経済的には非効率的なことです。それでもなお切手集めに努力するのはどうしてでしょうか。

BF 事業は国際・交流事業なのです。全世界のワイズメンがその地域、土地で入手できる切手を換金して国際に送ります。全世界のワイズメンが同じ作業をする連帯感は素晴らしいものです。

BF 代表はBF 基金を使い、ある地域(区)から他地域(区)を公式訪問する、国際交流をすることです。訪問する地域での大会参加が義務づけられています。

BF 代表にはフルグランドとパースシャルグランドとがあります。(P6に続く)

サクラの開花時期が気になります。昨年は3月28日の当日に開花が始まりました。今回は、26日。シダレザクラと、ソメイヨシノと二股をかけます。期日:3月26日(土)

コース:京王線・東府中駅-旧甲州街道-武蔵国府八幡神社-東京競馬場正門-瀧神社-いかだ道-東郷寺-白糸台駅-<西武多摩川線>-多磨駅-都立多磨霊園(外国人墓地・浅間山公園・浅間山・浅間神社には希望者だけ)-自動車運転試験所-<バス>-JR 三鷹駅・武蔵小金井駅

集合:京王線・東府中駅改札口 午前9時40分  
解散:都立多磨霊園・小金井門 午後2時半  
参加費:300円(初参加は名札代200円)  
持参品:昼食、飲料水、雨具、敷物

#### クラブ役員

会長 大野 貞次  
副会長 高嶋美知子  
書記 篠原 文恵  
会計 石井 元子  
担当主事 小畑 貴裕

2月の記録		ニコニコ	6,031円
在籍者数 17人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	1,069円
例会出席者数 12人	コメント 0人	ファンド残高	342,796円
メーキャップ 1人	ビジター 0人	ホテ校ファンド	14,800円
出席率 81%	ゲスト 1人	ホテ校残高	89,378円
前月修正 -	出席者合計 14人	WHO参加者	44人

## 3月合同例会のご案内

## 今月の強調テーマ： BF、メネット

今月は、恒例の東京世田谷クラブとの合同例会です。同クラブは、男性メンバーの多いクラブです。卓話では、日頃あまり知る機会のない、小児外科医療が、いかに日本に定着したか、そして、その技術と経験を、いかに諸外国に広めているかについて、昭和大学名誉教授・岡松孝男先生から伺います。

日時：3月17日（木） 18時45分～21時

会場：東京YMCA山手センター1階101号室

（新宿区西早稲田2-18-12 03-3202-0342）

会費：1,500円（ゲスト、ビジター、メネット）

担当：新C班（山田利、小畑、小山、鳥越、本川）

## HAPPY BIRTHDAY

6日 山梨 順子 30日 小原 武夫  
21日 吉田 明弘 31日 大野 貞次

開会点鐘  
ワイズソング  
聖書朗読・感謝  
挨拶と紹介

会食

卓話者紹介

卓話 「カンボジアに小児外科を設立するまで」  
昭和大学名誉教授・岡松孝男氏

ハッピーバースデー

会長報告 両クラブ会長

YMCA報告 東京西担当主事 小畑 貴裕

東京世田谷担当主事 山梨 雄一

ニコニコ 一 同

閉会点鐘 東京世田谷会長 岩崎 弘

受付 山田利三郎(東京西)  
司会 本川 悦子(東京西)  
東京西会長 大野 貞次  
一 同  
小山多喜子  
東京西会長 大野 貞次  
東京世田谷会長 岩崎 弘  
一 同

## -2月事務会報告-

日時：2月25日（木）

19:00～21:00

場所：荻窪・ピアンタ

出席者：石井、大野、神谷、木原、  
篠原、高嶋、本川、吉田

<報告事項>

①2月のデータを確認した。

②1月・2月の経常会計報告があった。

③会員の近況が報告された。

<協議事項・例会関係>

## ▲4月例会

日時：4月21日（木）

18:45～21:00

会場：あんさんぶる荻窪5階

卓話者：小山久恵さん（東京サンライズ）

卓話：BF代表として豪州の旅  
ー違うクラブ運営とおもてなしー

担当：A班 吉田・木原・堀内・  
石井・篠原・山田（紀）

## ▲5月例会

日時：5月19日（木）

18:45～21:00

卓話：西川喬也氏

「ハーバード式交渉術」

担当：B班（神谷、河原崎、

竹内、高嶋）

<協議事項・例会以外>

①次期クラブ役員候補出の件：  
会長（高嶋美知子）、副会長（篠原文恵）、書記（本川悦子）、会計（石井元子）を決めた。

②次期クラブ会長・部役員研修会  
日時：3月5・6日（土・日）  
場所：日本YMCA同盟国際青少年センター「東山荘」  
出席予定者：高嶋、本川

③あずさ部次々期部長候補推薦の件：

当クラブから大野貞次さんを推薦する心づもりがあったが、本人から健康上の不安があるとの申し出があり、ペンディングとし、次回あずさ部評議会までに決める。

④事務会に引き続き40周年準備委員会を行い、下記の件を協議・確認した。

講演講師、プログラムの具体的内容が示され、司会、祝辞の依頼者等を相談した。

また、記念発行予定の「WHOコース集」進行状況について報告があった。

（書記・篠原文恵）

## 卓話者紹介

## 岡松 孝男(おかまつ・たかお)氏

1956年、昭和医科大学に進み、1963年、同大学外科学教室に入局し、1987年、同大学に小児外科を新設し、初代教授に就任。1980年にカンボジア難民救済医療団長としてタイ、カンボジア国境で難民医療にあたる。

1981年から2005年にはカイロ大学小児病院に対する医療援助を行う。1998年、国際開発救援財団評議員・医療顧問に任命され、カンボジア国立小児病院の建設と小児外科手術の技術支援を行う。

2011年、昭和大学小児科教授を退任し、同大学名誉教授に。現在は戸塚共立第一病院訪問診療部長、九州大学特任講師のかたわら、国際開発救援財団理事・医療顧問として年に1～2回、カンボジアを訪問し、小児病院で指導するとともに、全土に小児外科学を広めている。



雄弁に語る卓話者・松田雄年さん

## － 2月例会報告－

2月例会はこの日も寒さ厳しい18日に開かれた。健康上の理由で欠席者が少なくなく、またゲスト、ビジターもなく、ちょっと淋しいTOF例会となった。

卓話者に社会福祉法人東京家庭学校校長松田雄年さんをお迎えし、「児童養護施設の現状と将来像～東京家庭学校の歴史と理念」と題してお話を伺った。ワイズの国際憲法を児童福祉という切り口から学ぶことを意図したものであった。

卓話は、△児童養護施設とは法的に、また現実的にどうもので、どのように運営されているか、統計数字を示して課題は何か。

△児童養護施設の一つである東京家庭学校はどのような理念の下に運営されているかについて話された。

児童養護施設とは児童福祉法により定められたもので、親の死亡、離婚、入院、虐待、棄児等様々な事情で親等保護者と一緒に暮らすことのできない1～18歳の子ども達を養護し、健康に育て、権利を守るという養護と、社会的自立を育む自立支援とアフターケアを目的とした施設。大は数十人の大専用施設で、小は10人程度の施設（専用ないし地域の社会の家屋）で入所児童と担当職員と一緒に生活して養育・養護し、退所したものに対する相談や自立支援も行う。

東京家庭学校は、1899年（明治32年）に留岡幸助がキリスト教信仰に基づいて、「子どもは救うべきもの、導くべきもの、教う

べきもの、愛すべきもの」という児童観によって創設し、現在もその創立理念に則って養護・養育を行っているとのこと

である。

また、10年前、福生市に小規模施設（提携型グループホーム）を開設するに際し、施設開設に総論賛成、各論反対の住民との闘いにも触れられた。松田さんは政治的手腕も大したものと感じさせられた。（神谷幸男）

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、小山、篠原、高嶋、竹内、鳥越、本川、山田(利)、吉田、＜メネット＞神谷M、＜ゲスト＞松田雄年さん（卓話者）

## － 2月WHO報告－

普段は立ち入り禁止されているJALの整備工場とミュージアム見学をコースに組み入れました。羽田モノレール・新整備場駅に集合したのは、申し込みが早く、その後も支障がなく、この日を迎えた精鋭44人。

全員がIDカードを首に吊るして、入退館をチェックされます。まずは、教室で、空港と旅客機について、スライドで説明を受けました。展示エリアで人気があったのは、歴代の制服展示。意外だったのは、客室乗務員や機長の制服を着て、写真を撮る人が何人も出たことです。うわっぱり（割烹着）式になっていて、袖を通して、背中をマジックテープで止めると、あっという間の早変わり。体形も無関係です。「うわー、お似合いですよ」と、キャビンアテンダント経験者の介添え役。誰にも言っているようです。お目当ての整備工場は、大型機の整備は見る事ができず、残念。

昼食は国際ターミナルビルの



すべてがデカイ。WHO・JAL整備場見学

江戸小路で。19世紀前半の江戸日本橋を2分の1サイズの「はねだ日本橋」。バックに江戸の町の賑わいを描いた「江戸図屏風」など9枚の陶板壁画がかけられていました。心配された雨もなく、予定通り芝の町を新橋まで歩いて解散しました。

ワイズ参加者は石井・河原崎・吉田（東京西）、中澤・藤江（東たんぼぼ）でした。（吉田明弘）

## 講演はラグビーの今泉清氏 40周年記念会の概要

クラブ40周年記念祝会の拡大準備委員会が、2月25日の事務会後に開かれました。

次の事項が明らかになり、やっとな姿が見えてきました。

- ①講演講師には、元ラグビー日本代表選手で、現在、パフォーマンスコンサルタントとして研修、講演をされるかたわらラグビーの解説、評論をされています。選手時代は、早大、サントリーを通じて、五郎丸選手と同じフルバックで活躍し、満員の国立競技場を沸かせたスタープレーヤーです。「ラグビーにおけるチームワーク、リーダーシップ」という内容のお話をお願いします。
- ②ホテル学校の留学生への奨学金の贈呈式を行います。また奨学奨励金を受けて、ホテルマンとなった卒業生を招待します。
- ③WHOウォーキングの200回にあたり『東京付近のウォーキング200コース』を編集発行します。（準備委員長・吉田明弘）

## 第2回きさらぎ評議会報告

2月13日(土)11時30分から松本市内のあがたの森文化会館で開催され、各クラブの評議会議決権者42人、委任状13人で評議会は成立。当クラブからの参加者は大野・神谷・篠原・高嶋であった。標あずさ部長の開会点鐘で開催、ホストクラブの会長・飯島ワイズの歓迎挨拶があり、引き続き標部長の挨拶、議案審議が行われた。

第1号議案：2016～2017年度の部役員について、次期浅羽部長から提案がなされ承認した。

第2号議案：2015～2016年度部中間決算は、小倉会計から提案され承認した。

第3号議案：2016～2017年度部選出代議員推薦の件は、標部長から提案があり承認した。

第4号議案：2015～2016年度CS助成金配分の件が討議され、それぞれが承認された(詳細内容は書面にて例会で報告します)。

2015～2016年度半期の活動状況を、部長・各事業主査・各クラブ会長が報告し、無事審議報告が終わり、その後懇親会に移った。

今回は部長の発案で食事をしながらミニ分科会を開くことになった。議題は「あずさ部を元気にするには」と題し6班に分かれて行い、各班にリーダーを設け食後に発表することで話し合われた。各内容については荒川書記がまとめておられたので後日発表されると思います。しかしながら、この時間が非常に有意義だったと思いました。お互いの思いを話し合う事であずさ部のメンバー意識が更に高まったと感じました。今後もこのようなミニ分科会が開かれ、少しでも前に進めるあずさ部独自のプログラムができればと考えます。

よき時間を過ごし、午後3時過ぎに松本を立ち帰路につきました。当日は温かくて雪が無く助かりました。(大野貞次)

## YMCAならではの学校

ホテル学校校長 小畑 貴裕

東京YMCAにホテル学校の専任講師として採用されたのは25歳の時でした。あれから、25年の月日が流れ今年50歳を迎える年になります。25年前のホテル学校は総在籍者数が800人を超えるマンモス校でした。団塊ジュニア世代が18歳になる頃、そしてテレビドラマ「HOTEL」の影響もとても大きかった時代です。

当時のホテル学校は現在の山手センターの校舎の他に、早稲田通り沿いに8階建の新築の校舎を使用していました。私がホテル学校で働きだしたのは、まさにその新校舎が出来て間もなくの頃でした。学生数が多ければスタッフの数も、講師の数も本当に多い時でした。

しかし、少子化の影響が一気に押し寄せます。学生数は減り始め、10年間使用した新校舎をたまた、神田にあった英語専門学校とホテル学校が統合されます。ホテル学校は創立の地でもあった神田に戻ることになりました。

移転をしてしばらくすると、バブルの影響を受けたのでしょうか、神田新館の売却が決まり再度ホテル学校は山手センターに戻ります。行ったり来たり…学校名も変わったり、戻ったりの繰り返しの中で、学生指導をするスタッフとして非常に難しい時もありました。

一度失ってしまったブランドを回復させるには時間を要します。老舗ホテル学校の終焉を覚悟した時でもありました。スタッフは数人になり、一番少ない時の入学者は47人でした。このまま、ホテル学校は無くなってしまおうと覚悟をした記憶があります。

そんな学生が減少する時にも、YMCAのホテル学校を選んで入学してくれる学生がいたのは事実です。もう一度、YMCAの運営するホテル学校として、

「YMCAらしさ」をどうやって伝えるかを真剣に考え始めたのが、その厳しかった頃だと思います。

山手センターというコミュニティ活動の拠点の中にあるホテル学校として、YMCAが提供するキャンプのリーダーに学生達を参加させるようになりました。それまでは、あまりコミュニティの活動に関わらなかった学校が、バザー・チャリティラン・街頭募金などに積極的に参加をするようになりました。

YMCAの運動はコミュニティの中にたくさんあります。そしてYMCAの様々な活動に関わっていくことが「YMCAらしいホテル学校」になることなんだと感じた頃です。

時を同じくして、東京西ワイズメンズクラブの担当主事になるお声掛けを頂きました。西クラブにはYMCAの歴史を知る方々、昔からYMCA運動を担い、支えてくれている方々が沢山いらっしゃいました。知らないことばかりでした。本来はYMCAの活動報告をする立場なのですが、教えて頂くことばかりだったのを思い出します。そして、2011年の東日本大震災が起きます。学生達を組織して、何度も被災地でワークキャンプに参加致しました。ホテルの知識、技術を教えるのがホテル学校ですが、YMCAのホテル学校は「人を育てる」学校なのだとは強く思います。

今年も卒業のシーズンとなりました。人間として大きく成長をしたホテルマンの卵を業界に出荷します。そして、チャーター40周年行事では、これまで奨励金を頂いたホテル学校の卒業生達にも声を掛けて、お手伝いを一緒にさせて頂きたいと思っております。きっと素敵なプロのホテルエになっていることでしょう。皆様に見て頂くのが私楽しみです。

## ☆☆ インタビュー ☆☆ 利根川恵子さんに聴く

\* \* \*

利根川恵子さん(川越)は7月から東日本区理事に就任されます。



「いよいよですね。昨年12月に韓国で行われた国際の次期理事研修会に参加されました。

「研修会はアジア地域だけではなく、韓国、南太平洋地域と合同でしたので有意義でした。特に南太平洋地域は、8月からアジア地域と合併し、地域名もアジア太平洋地域となりますので、お互いに親近感を持ち、今後の協力を誓いました。また韓国地域が来年度は現在の9区から11区になるということで、会員数の減少に悩む東日本区としては、会員増強の秘訣を研究していきたいと思いました。私自身は、達成目標を表明したことで、もうやるしかないという気持ちが固まりました」

「ところで入会はいつですか。」

「1998年、川越クラブのチャーターメンバーです。42年前に埼玉YMCAで英語講師として教え始めたことがYMCAとかかわるきっかけでした。以来ずっと会員です。川越センターが開設された時、川越にもワイズをとということで、お声がかかりました。仕事は忙しかったのですが、誘う方たちの熱心さと、小さいセンターを支援したいという気持ちから入会を決意しました」

「すぐに馴染めましたか。」

「はい。YMCAの延長の感覚でした。でも部や区の集まりなどの

受付で、メネットさんですか、と聞かれるなど、男性社会だと抵抗を感じることもありましたが」

「10数年前の花見の時期、私たちのWHOウォーキングで、40人ほどで川越城址を訪れたことがありました。故・工藤徹さんが昼食場所を確保しておくと言われたので、当然、屈強な男性が頑張っていると思ったら、サクラ散る広いシートの真ん中に利根川さんが、1人座って本を読んでいるのに驚きました。

「そんなことありましたね。周りでは、太極拳の人たちが大勢練習していました」

「学生時代の専攻は英語ですね。」

「専攻は、学部が応用言語学、大学院は英語教育です」

「なぜ、さいたま市役所に。」

「幼い頃から教員になりたいと思っていました。ところが大学で国際会議通訳法(同時通訳)もかじり、通訳の仕事もおもしろいと思うようになり、折衷案として、夏休みに国際会議のボランティアなどができそうな高校の英語教師になりました。5年間教鞭をとりながら、国際会議の通訳や国際交流を手伝っていたところ、旧大宮市の教育委員会指導主事となり、教育行政に。その後は市の国際化施策の企画、実施に携わり、最後はまた教育委員会に戻り、5年前に退職しました」

「それで条文にも強いんですね。」

「仕事で公文書をずっと作っておりました」

「2012年には、BFのフルグラントでインドに行かれました。」

「ええ、インドに3週間派遣していただきました。バンガロア5日、ハイデラバード3日、トリバンドラム、コーチ等ケララ州各地13日間と移動し、17家庭にホームステイをし、訪問クラブは20を超えました。部や区が主催する地域奉仕事業、TOF支援事業の視察など、インドのワイズ運動の社会や地域へのインパクトの大

きさに圧倒された3週間でした。

「インド地域は、会員が1万人近くいます。インドのワイズ運動の強さは「家族」といわれます。例会は、メン、メネット、リングス(ユース)が常に一同に会して行われていて、どのクラブも活気がありました。またCS事業も貧困層や、HIV、ガンなど病気の人々を対象に、日本では考えられない規模で行われています。一方では、多くの方が役に就きたいので、公平性・透明性を確保するために、すべての奉仕、貢献がポイント制になっていて、点数で評価されているのは驚きでした」

「大変深く見て、話し合っただけでしたね。ところで、東日本区としては、3人目の女性理事ですね。」

「次期国際会長もジョン・ウィルソンさんです。女性も自由に活躍できる会であることを、身をもって示したいと思います」

「ご主人は。」

「私生活ではパートナー、ワイズ活動ではサポーターです。私は、ワイズの用事で出かけることが多くなっていますが、いやな顔一つせずに送り出してくれます。夫は自分でメネット・ハズバンドと名乗っています」

「課題は、会員増強ですか。」

「何としても会員数を1,000人の大台に戻すように全力を尽くしたいと思います。今までワイズダムの進展に尽くしてこられた先輩の方々を思うと動かずにはられません」

「ところで、料理がお得意とか。」

「大好きで、毎年クリスマスには友人とその家族を招待して30~40人のパーティを開きます。昨年も好評でした。以前、家で行きつけの店のシェフに来てもらい、料理教室をやっていたので、その時に学んだコツが今でも生きています」

「ありがとうございます。」

(吉田明弘)

地元の病院での内視鏡検査の結果は食道癌のステージⅡとステージⅢの間であるとの結論であった。癌の治療法は一般には、

1. 抗癌剤による治療
2. 放射線治療
3. 手術により患部切除があるが、消化器系癌の場合、
4. 食事療法（体質改善）もある。

一般には1の抗癌剤治療と2の放射線治療を併用する。まずは抗癌剤により癌進行を抑制し、癌組織を小さくしてから、放射線により最後に癌組織を退治する方法である。入退院を繰り返す、治療中は毛髪は抜け毛や、吐き気に悩まされる。

手術による治療は身体にメスを入れるため、傷の治癒までの痛みがあり、消化器系の場合、合併

症による死の危険性に加えて、食事制限のために極端に痩せる可能性がある。

俳優業のように容姿や声を生業の具とした場合、どちらの治療も躊躇して仕事優先・治療後回しの気持ちになるのもも理解できる。私の場合、発見病院の担当医は抗癌剤と放射線治療の併用を薦められた。理由は

1. 70歳を超えた高齢で体力的問題
2. 心筋梗塞の手術直後での体力的問題
3. 食道癌は合併症や他器官へ転移の危険大

であった。

治療法の選択は医師の意見を元に、患者が自分で決定しなければならない。担当医にはセカンドオピニオンをとる事を薦められ

た。暮れも押し詰まった昨年12月29日に大学病院に紹介状を送付し、大学病院もすばやく対応し、1月5日に面接の機会を与えてくれた。

大学病院は私の健康状態を診察して、手術に耐えられると判断し、他器官への転移の有無のための精密検査を企画した。

2月に入り最新のPET-CT（転移の診察）を始め、各臓器別にMRI、エコー、レントゲン、CTと最初の10日間は検査に明け暮れる入院生活であった。その結果、大学病院の担当医は自信ありげに「転移の可能性は無いので、手術をしましょう。合併症の危険性がありますが、十分数値を観察して慎重に手術を実施します。」と告げた。

## ひな祭りに想う

小山多喜子

長いこと元気印といわれ、また自分も思っておりましたが、昨年の秋くらいから、自分の体が思うように動かなくなりました。

年齢のことなので仕方ないと思いつつも、暖かくなりましたら元気が出てくるのではと思っております。

先週、2回ほど神田川沿いを散歩して、花のつぼみが大きくなってきておりますのに寒いと思いつつも、春が近くなっていることに嬉しくなりました。

もうひな祭りだからお人形を出さなければと、1年ぶりに自分のひな人形に会うことができました。ひな人形を出しておりますと、昔から人形を出す頃、人形を飾るときのことなどを、色々思い出しました。

1年に1度しか出してもらえない人形なのに、戦時中は出してもらえなかったことが出来ず、防空壕の中で過ごした1年もあったなと思い、

今の平和をおひな様も喜んでいのではないかと思います。

2度とあの防空壕の中で3月を迎えたくないと思います。いつも平和な時代を祈り、元気でこの季節を迎えたいと願いました。

篠原文恵

ひな祭りによせて、知人から聞いた話です。

71年前のあの頃、東京の市ヶ谷柳町に住んでいたが、住民が強制疎開を命じられた家や、自主疎開をした家があり、人気のない街となっていたそうです。近所のいたずら坊主たちが空き家に入り、飾られたままのひな飾りで遊んだり、首をはねたりと狼藉をしたことを苦い思い出と共に語ってくれました。ひな飾りの持ち主は、その後無事に次の季節を迎えられたかと、この時期になるといつも思います。

わが家のおひな様は、嫁に行った娘にも引き取ってもらえず、押し入れの奥に眠ったままです。

(P1巻頭言から続く)

当クラブの今年度の区への送付実績は、

国内切手—2210g 1,320円

外国切手—45g 45円

です。引き続き使用済切手集めに努力することをお願いします。

(山田利三郎)

## 編集後記

今月も多くの方のご協力を感じます。

「2月例会報告」にある児童養護施設の実態、明日をにやう青少年のためのYMCAの学校、「ひな祭り」関連記事、木原さんの闘病生活、その他、興味あふるる記事満載。楽しい3月号片手に、外へ出てワイズダム発展のため、奉仕しよう、活躍しよう、春を満喫しよう。(R.Y)

